

いしづち

愛媛労災病院広報紙 第7巻第4号

（通巻第50号）

2009年10月5日発行

発行人：病院長 篠崎文彦

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進



化学療法・緩和ケアの取り組み

2

市民公開講座予定（10～12月開催分）

4

栄養管理部から

3

地域医療連携室だより

4

看護部紹介・北6病棟

3

野球部だより

4

化学療法・緩和ケアの取り組み

外科副部長 藤 井 雅 和

近年医療技術の発達や新しい薬剤の開発など、医療の進歩は著しいものですが、いまだに癌にかかる人、さらには癌で亡くなる人が増加しています。これまでに癌の治療は手術が第一選択とされてきました。もちろんそれはある意味正しいのですが、現在は手術・化学療法・放射線治療法をうまく組み合わせて治療していくのが大きなポイントとなってきています。これまでの化学療法は術後の補助化学療法が中心でしたが、最近では補助化学療法のみならず、再発・転移においても新しい抗癌剤や新しいレジメの開発などで、長期生存が可能となるケースが出てまいりました。

当院においても、施行している化学療法はがんセンターなどの専門病院と同じものであり、地域においても中央と同じ治療ができるように、手術はもちろんのこと、常に最新の抗癌剤治療を取り入れています。また、最近では、仕事の都合又は入院を好まない方にも化学療法を行わなければならないケースが増加してきています。

そのような場合でも極力日常生活の妨げにならないように平成20年8月から外来化学療法室を開設しました。これまで抗癌剤治療は副作用も激しく、入院でしか行えないというイメージがまだ浸透している面があります。そうではなく抗癌剤治療は外来でできるものもあり、また、副作用も人により千差万別で、クオリティー・オブ・ライフ（生活の質）を落とすことなく治療を行えるということを認知していただき、少しでも癌に悩める患

者様の手助けができればと考えております。

しかし一方で、治療に抵抗性を示し、命を落としてしまう方が多いのも実状です。今までの医療は、終末期を迎えた患者様に対して、大きな貢献ができていなかったのも実状です。終末期を迎えたときにホスピスに転移できればまだ良い方で、ホスピス自体もまだ足りない現状の中、疼痛コントロールも不十分で、最後まで病気と真正面から戦い続けながら亡くられることも少なくありませんでした。

当院では、平成21年4月に緩和ケアチームが発足しました。不幸にして治療が奏功しなかったとき、病気と共存する形であっても、最後は充実して人生を全うしていただくための手助けができればとの理念で活動を始めました。終末期の苦痛は、痛みもさることながら、精神的、社会的な課題も含まれるため、活動メンバーも多岐にわたる職種から集まってもらっています。緩和ケアの概念は、「患者様にはいかなる苦痛もしいてはならない」ということであろうと考えています。重ねて言えば、緩和ケアは癌の終末期の患者様だけのためではなく、良性疾患であっても何らかの苦痛を伴う患者様がおられれば、その解決の一助となれるようにしたいと思っています。

当院では、化学療法も緩和ケアもまだ始まったばかりです。これからも皆様のご支援ご鞭撻を賜り、さらに充実したものに発展させていけるよう頑張っまいります。



栄養管理部から

栄養管理室長 川 井 泉

本年4月より中野室長の後任として栄養管理室長を拝命しました。これまで学校給食や医院の栄養士、短大の食物栄養学科の講師をして参りましたので、300床規模の病院での栄養管理は経験がなく、重い責任に身の引き締まる思いです。皆様に教えていただくことばかりなのでよろしくお願いたします。

日本糖尿病療養士としての経験や、地域における健康増進の活動がささやかながらあります。これを少しでも有効にいかしてお役に立ちたいと思い、外来での栄養指導や、地域や近隣の企業で働く人たちのための健康づくりにも力をいれたいと思っています。当院には糖尿病教室があり、毎週木曜日に多職種が話をしていました。10月からは各職種が曜日ごとに担当することになり、栄養士による食事療法の話は金曜日になりました。糖尿病の患者様だけではなく、生活習慣病に興味のある方等どなたでもご参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。

さて、院内の栄養管理に関しては、以前から栄養サポートチーム（NST）で低栄養患者様の栄養改善に積極的に取り組んでいます。今年4月からは緩和ケアチームが発足し、栄養士もチームの一員として活動しています。昨今のチーム医療の重

要性は言うまでもありません。患者様一人ひとりに寄り添って適切な栄養管理ができるようチームワーク体制を整え、日進月歩の栄養療法や多職種の方からの情報を、いち早くとりいれてベストを尽くしていきます。

入院患者様の食事提供も大事な仕事です。安心・安全でおいしいお食事が提供できるよう、調理業務委託先であるトーカイフーズの職員との和を大切に、質、味の向上に努めています。特に食品の安全性を優先し、中国産を使わないように工夫を重ねています。

栄養管理部にとって、患者様や地域の方々の明るい笑顔が最高のプレゼントです。私たちも明るい笑顔を忘れずに患者サービスの心を大切に、地域の人々と共に歩んで行こうと思います。



看護部紹介 北6病棟

患者・家族の「からだ」と「こころ」のケアを目指して……

当病棟は外科、形成、歯科口腔外科の混合病棟です。急性期から終末期の患者さまに、看護師25名が一丸となり、より手厚い看護の提供につとめています。外科では、呼吸器外科、血管外科、消化器外科手術（年間250例以上）を治療しています。最近では腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術治療をはじめ、低侵襲手術が増加しています（腹腔鏡下胆嚢摘出術21件、胸腔鏡下肺切除術16件、経皮的血管形成術22件など）。

形成外科では、0歳児から高齢の方までを対象に、先天奇形、腫瘍、癍痕、褥瘡、眼瞼下垂症などの手術、治療をしています。ハイリスクの褥瘡は皮膚・排泄ケア認定看護師の指導のもと、洗浄、除圧、栄養管理など日々の看護につとめています。歯科口腔外科では、埋伏智歯抜歯術が多く、局麻での手術が困難な方は静脈麻酔下において手術室で行われ、1泊入院していただく事で「安心・安全」に治療・看護をうけていただけます。北6病棟は、いつでもどこでもだれにでも「スマイル」で対応し、「スムーズ」な治療を受けていただける

よう、業務も効率化を図るという意味で「スリム」にしぼり、「3S」をスローガンに頑張っています。

私達看護師は、医師と共にカンファレンスを行い病棟内で意見交換を行っています。患者家族が来棟した際には声を掛け、話を聴き、患者・家族・医療者が同じ方向を向いて進めるよう努力しています。今年度から結成された緩和ケアチームとも連携し、頑張っています。



愛媛労災病院市民公開講座「健康教室」予定表

会場：愛媛労災病院南館2階 大会議室 時間：15：00～16：30

回数	開催年月日	演 題	講 師
第73回	2009.10.15(木)	男性更年期障害について	佃 文夫・泌尿器科部長
第74回	2009.11.19(木)	脳卒中について	福井 啓二・脳神経外科部長
第75回	2009.12.17(木)	口の健康について	千葉 晃義・歯科口腔外科部長

どなたでもお気軽にご参加下さい。

地域医療連携室だより

イブニングセミナーの開催

9月4日(金)に当院大会議室において、第11回イブニングセミナーを開催しました。

今回は、講師に岡山労災病院副院長・アスベスト疾患ブロックセンター長である岸本卓巳先生を招き「アスベスト関連疾患の診断」についてご講演いただきました。

岸本先生は、労働者健康福祉機構が研究開発計画している労災疾病13分野の1つである「粉じん等による呼吸器疾患分野」について長年分析・研究をされており、今回のセミナーにはそのような先生の講演を拝聴するため、院内外から多数の医師及び医療関係者等にご参加いただきました。講演では、アスベストに暴露した患者の肺がん及び悪性中皮腫の症例に伴う診断等について大変貴重なご講演をしていただきました。

今回ご講演していただきました岸本先生、ご参加いただきました皆様並びにご協力いただいた関係者の皆様、大変ありがとうございました。



野球部だより サヨナラ負け

スポーツの秋真っ只中、今シーズンの病院リーグもいよいよ佳境を迎えています。

当院はというと先日の医師会戦でサヨナラ負けを喫してしまい、あと2試合を残し、今シーズンの優勝は消滅してしまいました。残念です。

サヨナラゲームは残酷です。サヨナラで勝てば、プロ野球のヒットを打った選手が手荒い祝福を受けているシーンさながら、ものすごくうれしいのです。しかしサヨナラ負けをしたときは、現実を認めたくないぐらいショッキング。サヨナラヒットを打たれた大前美文がへたり込むくらい悔しいのです。

さて医師会戦ですが1点リードされて迎えた7回表、佃先生の逆転タイムリーヒットで勝ち越し(本来は勝ちパターンであったはず)、その裏簡単に2アウト、その後ピッチャー大前美文がフォアボールでランナーを出し、代走に2盗、3盗を決められ、次打者をぼてぼてのゴロに打ち取ったのですが、サード平井がはじき、バックアップの千葉(私)もボールを上手く握れずに送球が遅くなり1塁セーフとなりノーヒットで同点とされました。そしてまた2盗、3盗をきめられそこでセンター前

ヒットを打たれサヨナラ負けです。NYDに初勝利を献上しました。医師会の皆様おめでとうございます。

イチローの9年連続200安打もそうですが、足の速さ、遅くてもしっかり走ることが大きな武器になることをあらためて勉強し、また、いまさらながらではありますが、野球は2アウトから、最後まであきらめず、油断せずにプレーすることのたいせつさを痛感したしいです。

後残り2試合ですが、次回サヨナラ勝ちして、おいしいビールを飲めるよう、肉離れにならない程度にしっかり走りしたいと思います。

写真は待ちきれない佃先生です。



広報紙編集メンバー 病院長(篠崎文彦)、副院長(友澤尚文)、医局(稲見康司、福井啓二)、看護部(伊藤千鶴、田中紀子、奥田育子)、総務課(松本伸二、田中 満)、医事課(石井裕美子、高橋義恵)、薬剤部(小野雅文)、放射線科(正岡憲治)、検査科(伊藤英司)、リハ科(小川進太郎)、栄養管理部(清水 亮)